



市・有形文化財 美術工芸品（彫刻）

木造僧形八幡神座像もくぞうそうぎょうはちまんしんざぞう 魚津市宮津（八幡宮）

檜の一木造りで、高さは25cmである。僧衣、円頂の落ち着いた座像であるが、両手首が欠損している。神像は本来ご神体として非公開が前提のため小さなものが多く、本像も小品ではあるが、地方では稀にみる優品といわれている。製作年代は鎌倉時代と推定されている。

宮津八幡宮の前身は、延喜式外社・加積神社と考えられており、貞観15（864）年に従五位下が授けられ、加積郷の総社として地元の信仰が篤い。中世には戦勝祈願の八幡信仰が盛んになり、松倉城の武将達から守護社として崇められていた加積神社が、八幡宮として信仰を集めるようになったと伝えられている。神仏習合思想により平安時代から中世にかけて僧形八幡神像が製作されるが、このような過程で本像も宮津八幡宮に納められたと思われる。八幡宮にはこのほか、鎌倉時代の木造菩薩形神像も収蔵されている。江戸時代に佐伯村から遷座した木造菩薩形神像も収蔵されている。